

午後試験

問題	設問	枝問	正解	備考
問 1	設問 1	a	カ	
		b	カ	
		c	エ	
		d	ウ	
	設問 2	(1)	ケ	
		(2)	ウエ	
		(3)	ケ	
	設問 3	(1)	イ	
		(2)	キ	

問題	設問	枝問		正解	備考
問 2	設問 1	(1)	a	ウ	
		(2)	b	オ	
	設問 2	(1)	c	エ	(順不同)
			d	ウ	
			e	オ	
			f	イ	
		(2)	g	ア	
			h	エ	
			i	イ	

問題	設問	枝問	正解	備考
問 3	設問 1	(1)	ウ	
		(2)	a	エ
	設問 2	(1)	b	ア
		(2)	ウ	
	設問 3	(1)	イ	
		(2)	オ	
		(3)	オ	
		(4)	c	ウ
			d	エ
		(5)	e	オ

問 1

出題趣旨
個人情報保護法は 2015 年に大幅な改正が行われ、安全管理措置の義務を負う企業が拡大するなど個人情報の保護が強化されたほか、個人情報をビッグデータとして活用する道が開かれた。企業においては、情報セキュリティ対策を単に受け身でなく自律的に講じるとともに、個人情報の有効活用を図ることによって最終的に経営に役立てることが重要である。 本問では、ヘルスケア商品の販売代理店での営業スタイルの見直しを題材に、情報セキュリティリーダとして、個人情報保護法改正の重要ポイントを把握した上で、モバイル PC の導入に伴い発生する情報セキュリティリスクへの対策を立案できる能力を問う。さらに、自社のマーケティング分析のニーズに合致する匿名加工情報に加工する方法を検討する能力、及び匿名加工情報を取扱う上で留意すべき事項に関する知識を問う。

問 2

出題趣旨
組織内部者による内部不正によって、企業の顧客情報や製品情報などの重要情報を持ち出される事案が実際に多く発生している。IPA の実施した“内部不正による情報セキュリティインシデント実態調査”（2016 年 3 月 3 日公開）によれば、中小企業では、退職者による内部不正も多く、また、内部不正対策に関する方針やルールが未整備の企業もまだ多い。 本問では、保険代理店で発生した事案を題材として、内部不正を防止するために、情報セキュリティリーダに求められる“内部不正を生み出す 3 要因：不正のトライアングル”の基本知識や、組織の実態に応じてリスクを適切に把握し、“組織”，“人”，“技術”の 3 面から原因を分析できる能力を問う。

問 3

出題趣旨
以前から、情報システム利用者の業務実態を十分に調査、分析しないまま、情報セキュリティ対策を施している例があった。その結果、現場での業務遂行に支障が生じたり、使いにくい情報システムができ上がったりしていたが、近年は、シャドー IT のようなルール違反が生じるという問題に発展しつつある。 情報セキュリティ対策の向上だけに目を奪われず、情報セキュリティガバナンスの原則である“利害関係者の要望を満たすとともに、利害関係者のそれぞれに価値を提供することが、長期的な情報セキュリティの成功のために不可欠である”を目指して、経営方針に従い、使いやすい情報システムの実現を目指すことが求められる。本問では、客先へのメール誤送信というトラブルを題材に、情報セキュリティリーダが現場の改善要望のヒアリング、機能改善を通して、企画、調整、管理などを進めていくための能力を問う。